

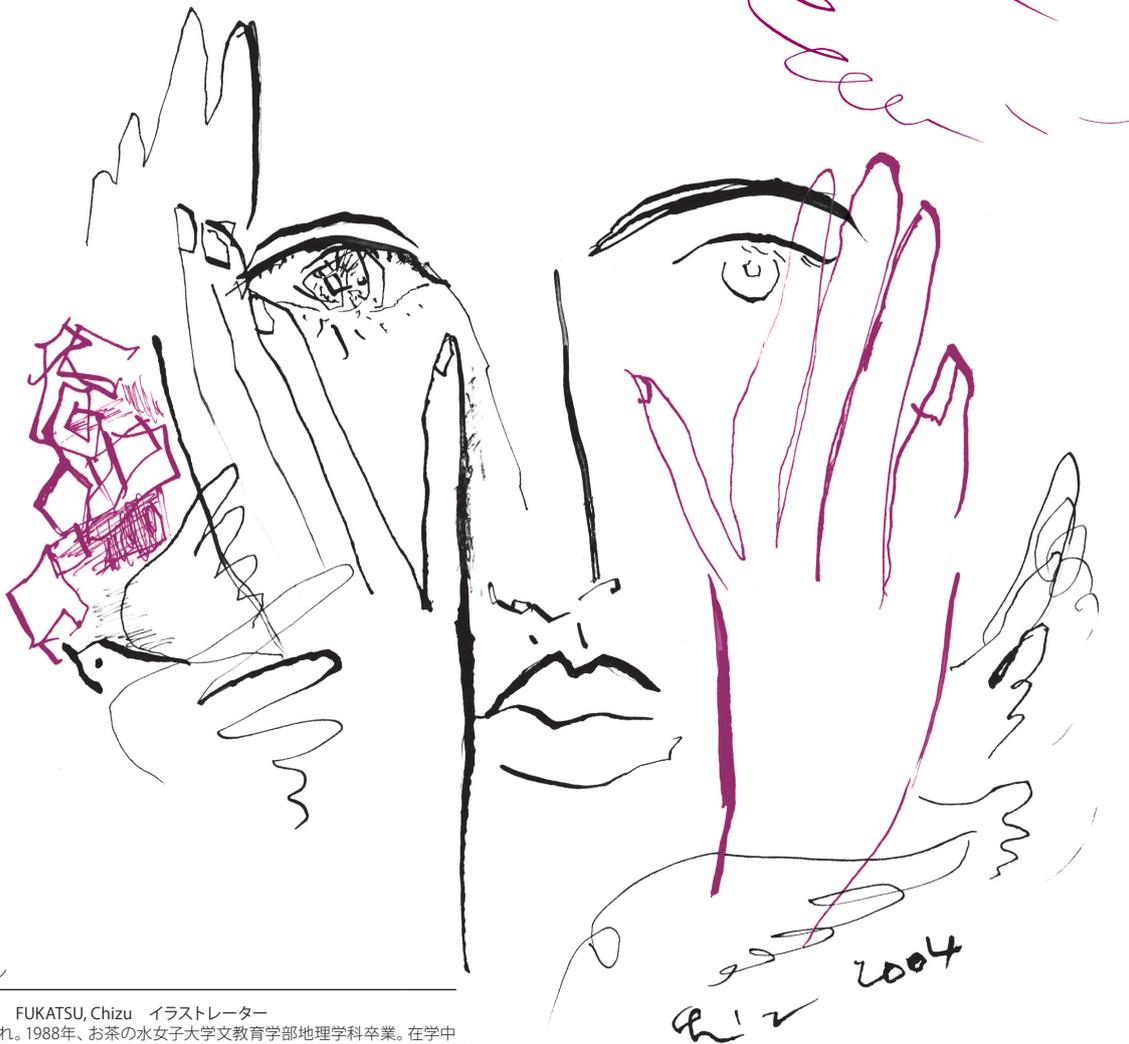
# ellipse

[エリプス]

## TOPICS

### お茶の水女子大学附属幼稚園 創立140周年 —歴史資料館の記念特別展と記念シンポジウム—

楕円(ellipse)には焦点がふたつあります。男性中心の社会から、女性と男性がそれぞれに中心(焦点)となる社会を目指すという思いを込めて、誌名を「エリプス」と名づけました。



ワ・タ・シ

深津千鶴 FUKATSU, Chizu イラストレーター  
東京生まれ。1988年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。在学中に、『週刊朝日』誌上にて「山藤章二の似顔絵塾」特待生となる。広告代理店勤務を経て、1990年より作家活動を開始。書籍装画、CDジャケットなど多く手がける一方、エッセイ執筆、壁画制作などの活動を展開している。

## REPORT

### 夢のつばさ♥プロジェクトニュース

◆事業報告(助成金事業)

桜蔭会神奈川支部講演会

「みんなで守る!子どものいのち

～防ぐことのできる子どもの傷害(injury)

について学ぶ～」(講師 山中龍宏氏)

## INFORMATION

お茶の水女子大学イベント情報  
事務局よりお知らせ



特定非営利活動法人

お茶の水学術事業会

# お茶の水女子大学附属幼稚園 創立 140 周年

## — 歴史資料館の記念特別展と記念シンポジウム —

お茶の水女子大学の特色の一つに、いずみナーサリー・文京区立お茶の水女子大学こども園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校、大学、大学院が一つのキャンパスにあることが挙げられます。この中で大学に次いで長い歴史を持つのが幼稚園です。

同園は、大学の前身である東京女子師範学校が開校した翌年(1876年)の11月、日本初の官立幼稚園として開園。師範学校で英語を教えていた関信三が初代監事(現在の園長職)、松野クララが主任保母に就任し、3～5歳の男女75人が入園しました。その後今日まで、幼児の教育、保育理論と実践の研究・発信、保育者の育成において大きな役割を果たし続けています。

2016年には創立140周年を迎え、11月26日に記念式典が挙行されたほか、歴史資料館の記念特別展、記念誌の発行、記念シンポジウムが行われました。

### 1. 附属幼稚園と幼児教育の140年 ～ 記念特別展から～

大学本館にある歴史資料館では、2016年1月～12月まで「附属幼稚園と幼児教育の140年」と題した特別展示が行われました。特に1月19日～31日の「附属幼稚園創立140周年記念特別展」の間中は、歴史資料館では初めての展示となる、フレーベルの肖像画と倉橋惣三の書「はいれない子にも薫れや梅の園」(ともに附属幼稚園所蔵)が展示されました。

#### 幼稚園のはじまり

幼稚園という呼称は、ドイツの教育学者フレーベル(1782-1852)が、1840年に幼児教育施設を「キンダーガルテン」と命名したのが始まりと言われていています。幼児の教育施設は遊戯によって自己活動を展開させる場と考え、そのための教育玩具20種類を開発して、「Gabe(ドイツ語で神が授けた物の意)」と名付けました。日本では、関信三が「恩物(恩恵により仏や父母から賜った物)」と訳し、附属幼稚園でも使用されました。

#### 開園当初の教育

開園直後の附属幼稚園ではフレーベルの幼稚園を規範とした教育が行われました。



[http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji\\_you140/](http://archives.cf.ocha.ac.jp/tenji_you140/)

1877(明治10)年の附属幼稚園規則には保育科目として「物品科」「美麗科」「知識科」の3科があり、25の細目に分けられています(五彩球ノ遊ヒ、三形物ノ理解、貝ノ遊ヒ、鎖ノ連結、形体ノ積立方、形体ノ置キ方、木箸ノ置キ方、環ノ置キ方、剪紙、剪紙貼付、針画、縫画、石盤図画、織紙、畳紙、木箸細工、粘土細工、木片ノ組立方、紙片ノ組立方、計数、博物理解、唱歌、説話、体操、遊戯)。「唱歌」は当初、雅楽課怜人が作曲し、保母が歌いやすく工夫したフレーベルの「母の歌と愛撫の歌」や「万葉集」を歌詞としたものを、松野のピアノに合わせて歌っていました。



「幼稚園保育図」(お茶の水女子大学所蔵)

当時の幼稚園の様子をよく伝える資料の一つに「幼稚保育図」(1890年)があります。東京女子師範学校で英語と美術教育を担当していた女性画家 武村耕靄の作品で、1955年のお茶の水女子大学創立80周年記念式典にあわせて高松宮家から下賜されました。

#### 教育内容の改革

1917(大正6)年に附属幼稚園主事に就任した倉橋惣三は、幼稚園を子どもが「真にそのさながらで生きて動かしているところの生活をそのままにして」自発性を充分発揮する場と考えました。そして、遊戯室にあったフレーベルの肖像画を園長室に移す、恩物を籠に入れて積み木として使用する、朝の会集

を取りやめるなどの改革を行いました。間に欧米留学を挟みながら、3期23年間に渡って附属幼稚園の主事を務め、日本の幼児教育をけん引した倉橋は、「日本の幼児教育の父」「日本のフレーベル」とも呼ばれています。



倉橋惣三先生と園児（お茶の水女子大学所蔵）

その後も附属幼稚園では、幼児教育の研究と実践がたゆみなく続けられ、子どもが自由に遊ぶことを重視した、自発性を尊重した保育理論・保育方法が確立されていきました。

現在の附属幼稚園は、「入園した幼児を保育して、心身の発達を助ける事」を目的に掲げ、「幼児期の特性をふまえ、それぞれの幼児が自分でやりたいことを見つけ、自分から人やものや環境にかかわって遊びに取り組んでいくこと」を重視しています。そして「教師との信頼関係を基盤に友達とかかわり、気持ちを伝えあいながら、仲間と共に生活する楽しさや、充実感を十分に味わえるよう」に配慮しつつ教育内容の検討を重ねています。

（附属幼稚園 HP：<http://www.fz.ocha.ac.jp/fy/>）



#### ◀ 畑の活動

園庭の一角で年長児が野菜を大切に育てています。畑の見守り役として「かかし」を作ることを思いつきました。

#### 学期末の風物詩 ▶

終業式前日の大掃除。園舎の長い廊下では廊下拭きレースが始まります。



## 保育者の育成

附属幼稚園は保育者を育成する場でもありました。

附属幼稚園の開園にあたり、東京女子師範学校の教職員であった近藤濱と豊田英雄が日本人初の保姆となり、ドイツで保育を学んだ松野クララからフレーベル教育の理論や保育全般を教わりながら、日々の実践にあたりました。

1878年、東京女子師範学校に保姆練習科が置かれ、給費生5名、自費生6名が入学すると、附属幼稚園はその実習の場として大きな役割を果たすようになります。保姆練習科は1880年に一旦廃止されますが、1896年に再設置され、1906年に保育実習科、1949年にお茶の水女子大学幼稚園教員臨時養成課程となり、1970年に廃止されるまで、各地で活躍する幼稚園教員を輩出しました。現在でも附属幼稚園は、お茶大生の保育・教育の実習と研究の場になっています。

## 教育研究機関としての役割—雑誌『幼児の教育』

附属幼稚園が、フィールド研究に基づく情報の発信を通して、日本の幼児教育の進展に寄与してきたことも忘れてはなりません。



『幼児の教育』（季刊、日本幼稚園協会（お茶の水女子大学附属幼稚園内）、定価950円（税込））

「お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション：TeaPot」には創刊号から刊行後3年を経過した号までが公開され、世界中からアクセスされています。

<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/52377>

『幼児の教育』は日本で最も長い歴史をもつ幼児教育研究誌です。附属幼稚園の保姆会が中心となって1896年に発足したフレーベル会の機関誌『婦人と子ども』として、1901年に創刊されました。お茶の水女子大学（東京女子高等師範学校）の幼児教育担当教授が代々編集責任者を務め、『幼児教育』（Vol.19 No.1～Vol.23 No.6）、『幼児の教育』（Vol.23 No.7～Vol.53 No.12）を経て、1955年（Vol.54 No.1）より現在の誌名になりました。時代が移り変わっても、「常に『子ども』という存在を起点とする教育・保育を問い続ける」というスタンスは変わることなく、さまざまな実践報告、研究論文、提言を発信し続けています。

## 2. 未来に向けて

### ～創立140周年記念シンポジウム 「幼児教育の過去・現在・未来」～

附属幼稚園の創立140周年は、前年の大学創立140周年と同様、グローバルな視点で未来を拓く第一歩と位置付けられました。2016年12月17日に、お茶の水女子大学と附属幼稚園が協力して開催した記念シンポジウムは、「これまで」の

附属幼稚園の発達研究と幼児教育研究の成果を振り返るとともに、「これから」の幼児教育の在り方について考えるものでした。

プログラム

司会：藤崎宏子(附属幼稚園長)

開会挨拶 室伏きみ子(お茶の水女子大学長)

来賓挨拶 伊藤学司(文部科学省 初等中等教育局幼児教育課長)

I. 基調講演 「世界の中の日本の幼児教育」

榎原洋一(お茶の水女子大学理事・副学長、日本こども学会長)

II. パネルディスカッション

パネリスト

大戸美也子(元お茶の水女子大学教授、元武蔵野大学副学長)

浜口順子(お茶の水女子大学教授)

伊集院理子(附属幼稚園副園長)

掘越紀香(国立教育政策研究所総括研究官)

ファシリテーター 小玉亮子(お茶の水女子大学教授)

閉会挨拶 真島秀行(お茶の水女子大学副学長)

基調講演は、榎原洋一氏が、日本の幼児教育について「世界の中でどのような位置にあるか」「世界から何が学べるのか」「世界にどのように発信していくか」という3つ観点からお話をしてくださいました。

1点目については、発達心理学の新しい研究テーマとして国際的に注目されている「ガイドされた遊び(Guided play)」や OMEP(世界幼児教育・保育機構)が提唱する「ESD(持続可能な開発のための教育)」を取り上げ、その一部は日本の幼児教育の歴史の中ですでに実践されてきたものであることを指摘されました。2点目として、現在のトレンドである「レッジョ・エミリア・アプローチ」を例に引き、海外の幼児教育実践法を導入する場合には、やみくもに形式をコピーするのではなく、「何」が素晴らしいのかを様々な角度から分析し、文化的な差異を踏まえて、日本に合うようにカスタマイズしていくことが必要であると述べられました。3点目に、「見守り」が日本の幼児教育の美点として海外から注目されていることを紹介し、優れた私たちの保育実践をより良くしていくと同時に、世界に発信していくことも、グローバルな時代の日本の責任ではないかと結ばれました。

続くパネルディスカッションでは、附属幼稚園と幼児教育の歩み、現在の教育内容、次の10年の展望・課題等について、4人のパネリストより提言がありました。

大戸美也子氏は、「附属幼稚園の過去」と題して、附属幼稚園が特に多くの課題に直面した明治17年から約10年間に焦点をあて、師範学校と附属幼稚園の教職員が一丸となり「改

良・進歩・実験」によって乗り越えてきた歴史を語っていただきました。さらに平成期の課題解決のキー概念として「開拓・探求・発信」をあげ、2017年1月から始まる「ECD(Early Childhood Development)世界キャンペーン」を先導して欲しいとの期待を述べられました。

現在『幼児の教育』の編集主幹を務める浜口順子氏は、雑誌の歴史と変遷を通して「附属幼稚園と大学の過去・現在」を振り返りました。その中で、明治末年から亡くなる年まで雑誌の編集に携わった倉橋惣三の保育思想が平成に入って再評価されたことの意味を考察し、未来に向けて保育者の資質・能力を育てていくことの重要性を提言されました。お茶の水女子大学としては、資格養成と現職者研修に力を入れるとともに、学生と社会人が共に学ぶ ECCELL プログラムの充実を図っていくとのことでした。

附属幼稚園副園長の伊集院理子氏は、「140年の歩みと現在の保育」をテーマに、「畑の活動」「年長児のチーム活動と協働的な活動」などの事例を紹介しつつ時代を遡り、「ひとりひとりに応じる」という根本原則が、自然な流れの中でまとまりのある活動に結びついている現在の姿は、倉橋が理想とした保育と重なるのではないかというお話をされました。さらに、近年注目されている非認知的能力の育成に関して、附属幼稚園が中心となって行った調査研究の結果を示し、同園においては、倉橋の「根の力」という言葉によって、すでに教育の中に取り入れられていることも述べられました。

幼児教育研究センターの掘越紀香氏は、平成30年度の「幼稚園教育要領」の改訂に向けて中央教育審議会が示す、「これから」の幼児教育の在り方、幼児教育において育みたい資質などについて、政策に携わる立場から解説してくださいました。今後は幼児教育に関わる施設全体として、専門性の向上を含めた教育の質の確保を目指していくことが重要であり、幼稚園・ナーサリー・認定こども園を併設するお茶の水女子大学がその見本を示して欲しいとのことでした。

掘越先生ご自身は研究の姿勢として「見る」ことを大切にしているというお話もあり、「見ることは会うことです」と結ばれたのが印象的でした。

当日は歴史資料館と2008年に登録有形文化財となった附属幼稚園の園舎が公開され、会場には記念スタンプのコーナーも設けられていました。



「温故知新」という言葉の通り、附属幼稚園のこれまでの歩みを振り返る中で、これから向かう先が見えてきたように感じられました。

(協力：お茶の水女子大学、お茶の水女子大学附属幼稚園)



# お茶の水女子大学 イベント情報

2017年3月以降に開催される各種イベントのお知らせです。

期日	イベント・講座名	参加費	備考
2017年 3月5日(日) 午前の部 10:30~12:00 午後の部 13:30~16:30	<b>第1回お茶大こども園フォーラム</b> ～文京区立お茶の水女子大学こども園～ 【午前の部】「見て・感じて・語り合って！」 こども園見学、ポスター発表、トークイベント 【午後の部】 ●研究報告 「小さなこども園の大きな挑戦(1)」(宮里暁美)、「園内研究会の立ち上げと変遷」(内海緒香)、「園評価の思想と課題—お茶大こども園の目指すところ」(小玉亮子) ●講演会「新しい乳幼児教育に求められるもの」 無藤隆氏(白梅学園大学子ども学部教授)	無料	【会場】お茶の水女子大学 午前の部：文京区立お茶の水女子大学こども園 午後の部：お茶の水女子大学講堂(徽音塾) 【主催】文京区立お茶の水女子大学こども園 【共催】文京区／お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 【詳細】 <a href="http://www.ocha.ac.jp/event/20170116.html">http://www.ocha.ac.jp/event/20170116.html</a> 【申込み】先着順、午前の部のみ参加定員100名(受付終了)、 <a href="https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Plone/kodomoenforum1">https://crdeg.cf.ocha.ac.jp/ocha2/Plone/kodomoenforum1</a> 【問合せ】お茶の水女子大学こども園 TEL:03(5978)5127、FAX:03(5978)5998 E-mail:ochadaikodomoenforum@gmail.com
2017年 3月13日(月) 13:30~17:30	<b>お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 平成28年度年度末成果報告会</b> ●研究所の概要と一年間の活動の振り返り ●部門別研究報告 ・教育・保育実践研究部門(浜口順子、宮里暁美、米田俊彦、富士原紀絵他) ・人間発達基礎研究部門(菅原ますみ、上原泉、大森美香、坂元草、浜野隆他) ・発達臨床支援研究部門(青木紀久代)	無料	【会場】お茶の水女子大学共通講義棟2-102 【主催】お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所 【後援】お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション開発研究機構 【対象者】学内教職員、学生、研究連携機関等 【詳細】 <a href="http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/">http://www-w.cf.ocha.ac.jp/iehd/</a> 【申込み】不要 【問合せ】人間発達教育科学研究所事務局 E-mail:ORC-HDE@cc.ocha.ac.jp
2017年 3月18日(土) 10:00~15:10	<b>お茶の水女子大学附属高等学校 2016年度SGH成果発表会</b> (兼第21回公開教育研究会) 2年生「持続可能な社会の探究」(総合的な学習の時間)の成果発表および1・2年生によるグループワークを予定しています。	無料	【会場】お茶の水女子大学講堂(徽音塾)・附属高等学校 【主催】お茶の水女子大学附属高等学校 【対象】教員および教育関係者 【詳細】 <a href="http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/menu/study/research-meeting.html">http://www.fz.ocha.ac.jp/fk/menu/study/research-meeting.html</a> 【申込み】附属高等学校のホームページよりお申し込みください。
2017年 3月18日(土) 10:30~11:40	<b>お茶大女性ビジネスリーダー育成塾: 徽音塾 2017年度説明会</b> 概要や講座内容、担当講師、昨年度からの変更点、申込方法などをご紹介します。2016年度の受講生から直接、受講した感想を聞くことができます。女性活躍推進のための社員研修としてもご活用いただけます。	無料	【会場】お茶の水女子大学 大学本館127室 【主催】お茶大女性ビジネスリーダー育成塾:徽音塾 【詳細】 <a href="http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/">http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leader/kiin/</a> 【申込み】不要 【問合せ】お茶大女性ビジネスリーダー育成塾:徽音塾事務局 E-mail:kiin-le@cc.ocha.ac.jp
2017年 3月25日(土) 14:00~17:00	<b>第5回リケジョ - 未来シンポジウム</b> 社会で活躍している理系女性に、理系・専門を選んだきっかけや、仕事の内容・やりがい・夢を語っていただきます。 対象:女子高校生・中学生、保護者、教員、大学生	無料	【会場】お茶の水女子大学 【主催】理系女性教育開発共同機構 【詳細】 <a href="http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/">http://www-w.cf.ocha.ac.jp/cos/</a> 【申込み】 <a href="mailto:coreofstem-sympo@cc.ocha.ac.jp">coreofstem-sympo@cc.ocha.ac.jp</a> 【問合せ】理系女性教育開発共同機構 E-mail:coreofstem-sympo@cc.ocha.ac.jp TEL:03-5978-5825
2017年12月まで	<b>お茶の水女子大学歴史資料館 企画展示</b> 「東京女子師範学校からお茶の水女子大学へ — 所蔵資料からみる女子高等教育 —」 【附属図書館 いま・むかし】 ※「附属中学校創立70周年記念特別展示」136号室で11月より開催予定	無料	【会場】お茶の水女子大学 本館1階 歴史資料館 【詳細】 <a href="http://archives.cf.ocha.ac.jp/">http://archives.cf.ocha.ac.jp/</a> 【見学申込み】歴史資料館ホームページを確認の上、希望日の2週間前までにお申し込みください。 お茶の水女子大学 図書・情報課 歴史資料館窓口 E-mail:shiryo@cc.ocha.ac.jp

お茶大  
ゴール

パッケージと葉が新しくなりました!! これからもよろしくお願ひいたします。

- ばにら・ちょこ・いちご味 各2袋(計6袋)入
- 本体価格600円  
\* 会員および大学・附属学校園の卒業生、教職員など、関係者の方には割引があります。
- 発送も承っております。  
\* 20箱以上ご注文の場合には、送料が無料となります。



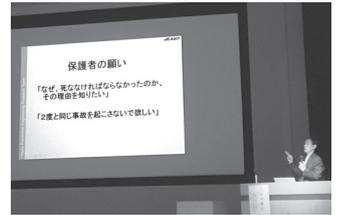
## ◆ 事業報告 助成金事業

## ● 桜蔭会神奈川支部講演会

「みんなで守る！ 子どものいのち  
～ 防ぐことのできる子どもの傷害 (injury) について学ぶ ～」

講師 山中 龍宏 氏

(NPO 法人 Safe Kids Japan 理事長、緑園こどもクリニック院長)



- 【開催日時】 2016年9月28日(水) 10:00～12:00
- 【会場】 男女共同参画センター横浜 1階ホール
- 【主催】 桜蔭会神奈川支部、男女共同参画センター横浜
- 【助成】 一般社団法人桜蔭会、NPO 法人お茶の水学術事業会
- 【参加人数】 66名

この事業は桜蔭会神奈川支部が男女共同参画センター横浜と協働し Safe Kids Japan (<http://safekidsjapan.org/>) の協力を得て実施しました。申し込み受付時に、任意で参加者の「年代・性別」「子どもとのかかわり(例・保育士・看護師・父母など)」「講演会で特に知りたいポイント」などをお聞きし、講師の山中先生に前もってお知らせし、講演に臨んでいただきました。

## ● 講演要旨

I. なぜ 30 年以上にわたり子どもの傷害予防に  
取り組んでいるのか

小児科医をしていると、怪我、窒息、おぼれ、転落、やけどなどで救急搬送されてくる子どもを診る機会が多いが、ある決まった月齢・年齢で同じような事故で運ばれてくる例が多い。何故こうも同じような事故が起きるのか、疑問を持つようになった。治療後「気を付けてくださいね」と帰すわけだが、また繰り返し同じような例に出会う。なんとか予防することはできないだろうかと思っても、医者だけでは解決できないと考えようになった。

## II. そもそもデータがなかった

予防に取り組むといっても、どのくらいの年齢、性別、身長の子どものが、どんな場所で、どんな時間帯に、どんな様子で怪我をしたのか？当初データはほとんどなかった。

毎年厚労省から発表される人口動態統計によると、ゼロ歳児を除く子どもの死亡原因の第1位は「不慮の事故」で、この50年間ほとんど変わっていない。不慮の事故による死亡原因の内訳もほとんど変わっていない(交通事故死が3～4割、溺水が2割、窒息が2割など)。ただし、この統計で把握されている数は事故が起きてから短期間のあいだに亡く

なった子どもの数であって、その後、数年経って亡くなった子ども、命は助かっても重い障害が残って暮らしている子どもは、人口動態統計の10倍くらいいるはずである。その子の父母、兄弟、祖父母や関係者への影響を考えると社会的損失は大変大きい(不十分ではあるが、日本スポーツ振興センターの災害共済給付金データ、保育事故データベースなどが利用できるようになってきた)。

## III. 事故は必ず起きるもの

医者にかからない程度の小さなものを含めると、全く怪我もなく子どもが成長するということはない。小児は発達に伴って怪我をする。昨日までできなかったことが、今日できるようになって事故に遭う。事故は必ず起きるものだ。その避けることがむずかしいことを如何に防ぎ、または軽症で済むようにするかを考えるべきである。「目を離さないで」「注意して」という具体的でない注意喚起では予防にはつながらない。

## IV. 変えられるものを見つけ、変えていく

## — 不慮の事故 (accident) から傷害 (injury) へ。

予防を考えるうえで大切なことは、事故が起きた時の科学的な検証・分析である。避けられない事故ととらえるのではなく、防ぐことができる傷害という考え方が大切。注意喚起や個人の責任を問うていたのでは予防はできない。子どもを取り巻く環境や製品(建物、家具、おもちゃ、遊具、電気製品、衣服など)で変えられるものを見つけ、変えていくことが大切である。

## ● 講演会を開催して

平日の午前中という日程にもかかわらず、この問題に関心の高い方々、専門性を持つ方々(保育士、救命士、看護師、幼稚園・保育園の管理栄養士、子育て支援拠点スタッフ、児童クラブ支援員など)が多く参加されたことは一定の成果と考えます。ただ、一般向けの講演会としては、もう少し幅広い層の方々に参加していただきたかったというのが感想です。

(桜蔭会神奈川支部 公益事業担当 松元陽子)

## 夢のつばさ♥プロジェクト

「夢のつばさ♥プロジェクト」は、東日本大震災で親を失った子どもたちを長期にわたって支援することを目的として、お茶の水学術事業会を中心としたNPO法人4団体によって進められている事業です。

## 2016年冬のクリスマスキャンプ

- 【実施期間】** 2016年12月23日～26日  
**【開催地】** (株)ブリヂストン保養所 奥多摩園(青梅市)  
**【参加内訳】** 小学生13名、中学生9名、高校生3名、学生ボランティアスタッフ44名(入替り有、OB・OG含む)、社会人スタッフ/協力者18名(看護師含む)

## 【主な内容】

12月23日	開会式、アイスブレイクゲーム
12月24日	朝の勉強会、ハガキ作り(1)、キャンドルツリー制作、クリスマス会、音楽会(マリンバ、フルート、ソプラノ)
12月25日	朝の勉強会、ハガキ作り(2)、オリエンテーリング
12月26日	閉会式、写真スライドショー

12回目となった今回の宿泊行事は、初参加3名としばらくの2名も加わって、楽しさ満載のキャンプとなりました。

開会式では、キャンプ中にひとつでも多くの「頑張ったこと」を見つけて欲しいとの思いを込め、視覚探索絵本になぞらえて「ミッケ!」というテーマを発表しました。ただ楽しくて面白いだけではなく、子どもの自信に繋がるような「頑張ったこと」を、周りの学生とともに「ミッケ」する4日間が始まりました。

2日目は牛乳パックからはがきを作る「パ」ガキ作り、次いで東京電機大学の岩城和哉先生ご指導による「木材を使ったクリスマスツリーの組立て」に挑戦しました。材料を運んだり、ツリーの棚によじ登ってボルトを締めたり、作業に率先して取り組んでいる子どもが何人もいて、とても楽しんだ様子でした。

今回のクリスマス会は、室内の飾りつけからパーティー中の司会まで子どもたちが中心となって進めました。皆で制作したツリーには



クリスマスツリー制作



ツリーの点灯式

LEDライトを取付け、点灯式が行われて歓声が上がりました。手作りのバルーンアートやアイシングクッキー、コットンボールランプも飾り、ビンゴ大会も開催しました。ブリ

ヂストン保養所の心尽くしの夕食会には、サンタさんも登場し、子ども一人ひとりがサンタさんから直接プレゼントをもらうことができました。



クリスマスイブ音楽会

夕食後はクリスマスイブ音楽会です。フルート奏者の武田真衣様、ソプラノ歌手の高藤真理子様、マリンバ奏者の岩崎りえ様が素敵な歌と演奏をお聞かせくださいました。最後に全員で輪になって「きよしこの夜」や恒例の「翼をください」を歌いました。急きょ高校3年生の男子もフルート演奏で加わり、皆、クリスマス気分を満喫しました。

3日目には、一晩乾かしたハガキをオリジナルに仕上げ、学生と子どもで贈り合いました。少し照れくさそうに「ありがとう」と書かれた手紙を学生に渡す子どももいて、とても温まる企画になりました。午後は、いつも過ごしているブリヂストン保養所「奥多摩園」の施設や広い庭園をもっと知ろうというオリエンテーリング企画です。子どもたちは奥多摩園の敷地内にある滝からミニゴルフ場の端まで探検し、ミニゲームにも挑戦して達成感に満ち溢れていました。

最終日、閉会式での振り返りで「苦手なイカとおからとトマトを全部食べることができた」「あまり話したことがない○○ちゃんと話してみたら仲良くなれた」「トランプで負けても我慢できた」「みんなが卓球で遊べるように順番待ちリストを作った」などのたくさんの「頑張った「ミッケ」」が挙がって、学生ボランティアを感激させました。

この活動に携わり、子どもたちと学生たちが互いに啓発しあって成長していく素晴らしさを実感しております。皆様がいっつも温かくお支えくださって、有意義な活動が続いておりますことを心より感謝申し上げます。

今後ともご支援をよろしくお願い致します。

(夢のつばさ♥プロジェクト)

## ご寄附のお願い

【口座】三井住友銀行 大塚支店(店番号227) 普通1284200

【名称】特定非営利活動法人 お茶の水学術事業会 理事長 平野由紀子 ※夢のつばさプロジェクトの専用口座です。

ご寄附いただく際には、ご芳名、ご住所(連絡先)を下記までお知らせください。

※恐れ入りますが、税金控除の対象にはなりませんので、あらかじめご了承ください。

連絡先: 事務担当 滝澤公子 TEL&FAX: 03-5978-5362 Email: tsubasa@npo-ochanomizu.org

お茶の水学術事業会事務局よりお知らせ

平成 29 年度「共催・助成金」事業の受付について

- 【受付期間】 2017年5月1日まで
- 【対象】 2017年4月1日～2018年3月31日に実施される以下の講演会または活動
1. 共催：参加予定人数 50 名以上の、広く一般を対象とする講演会
  2. 助成金
    - (1) 学術・調査・研究・教育等の活動
    - (2) 学術関連等の出版事業
    - (3) 国内及び海外におけるボランティア活動
    - (4) 国際協力研究・教育支援事業
    - (5) 保育及び子どもの健全育成のための活動
- 【事業の決定】 3月と5月に開催される理事会において書類審査を行い決定します。
- ※ 詳細は、お茶の水学術事業会 HP の「共催・助成金」([http:// www.npo-ochanomizu.org/kyousai.html](http://www.npo-ochanomizu.org/kyousai.html)) をご確認ください。
- ※ お問合せ：お茶の水学術事業会事務局 Email : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org) TEL : 03-5976-1478 (月～金 10 時～16 時)

「雅 Grace - グレイスー」の取り扱い終了につきまして

お茶の水学術事業会は、お茶の水女子大学長 室伏きみ子氏の発見した cPA (環状ホスファチジン酸) を成分とする化粧品「雅 Grace」を 2008 年より特別価格で提供してまいりました。その売り上げの一部は、発売元の SANSHO 株式会社を通じて大学に寄附されてきましたが、雅 Grace の生産・販売終了に伴い、当会での取り扱いも終了となりました。これまで、ご協力くださった皆様にご心より御礼申し上げます。

cPA は、肌への良い効果だけでなく、高い育毛効果も証明されるなど、近年ますます注目されています。スキンケア商品としては、雅 Grace の進化形である「Mellow - 潤 -」「グレイス・プリュス (Grace Plus)」が登場します。詳細は各発売元にお問合せください。

雅 Grace 販売終了のお知らせ

いつも雅 Grace - グレイスーをご愛用いただき、誠にありがとうございます。  
このたび、雅 Grace - グレイスーは、2017年1月末日をもちまして、販売を終了させていただくこととなりました。  
今後、SANSHO 株式会社は、室伏学長が発見された cPA を日本及び世界に広めるため、原料販売に特化した事業に力を注いでいきます。

ご愛用をいただいております皆様にはご迷惑をお掛けいたしますことを、心よりお詫び申し上げます。

グレイス乳液、グレイス美容液は、(株)オードシエルにて、在庫のある限り販売を致します。今まで通り、学術事業会様へご注文ください。

グレイスに代わる商品として、グレイス・プリュス (Grace Plus) をオードシエルより販売予定です。従来より高精度の cPA 配合を配合した新商品となります。Mellow-潤-とともに、室伏学長の cPA を広めるため、応援いただけますと幸いです。

SANSHO 株式会社 代表取締役社長 諸星俊郎

今後のグレイスに関する問合せ先：株式会社オードシエル  
TEL : 03-6804-8494  
<http://www.eaeduciel.co.jp/>

「雅 Grace」がパワーアップして「潤 Mellow」が生まれました!



サイクリックピーエー (cPA) 発見者、室伏きみ子名誉教授を囲むお茶の水女子大学の研究員達の研究の結晶が「潤 Mellow」を誕生させました。

※サイクリックピーエー (cPA) 配合 (化粧品成分表示名：環状リゾホスファチジン酸 Na)

- ・メロウ化粧水 (81ml) 9,000 円 (税別)
- ・メロウ乳液 (50ml) 7,000 円 (税別)

お茶の水女子大学長・室伏きみ子名誉教授監修

『Mellow - 潤 -』ロゴについて

みがかずば たまもかがみも なにかせんまなびのみちも かくこそありけれ

【発売元・お問い合わせ】  
株式会社山房インターナショナル  
東京都千代田区神田神保町1-3 Tel: 03-3291-2578

明治8年に昭憲皇太后より賜りました御歌は、お茶の水女子大学附属幼稚園から大学院までの校歌として今もお歌い継がれております。「Mellow - 潤 -」はこの御歌により八稜鏡の形を取り入れ、どなたにも内より輝いていただきたいとの願いを込めました。

編集後記

「1年なんてあっという間だ」と時々感じているのですが「×140」となると話は別。附属幼稚園が歩んできた140年の間には、天災や戦争だけでなく幼稚園不要論・有害論さえあったそうです。記念シンポジウムでは、関係者が一丸となって幾多の困難を乗り越えてきたエネルギーが今も持続しているというお話もあり、大きく頷いてしまいました。

広告募集

このページに広告を掲載しませんか? 次号は2017年6月に2500部発行予定です。会員の皆様ははじめ全国の公共機関などに配布しています。広告料金は、1回につき20,000円。詳しくは下記までお問い合わせください。

事務局

**OPEN 月～金 10:00～16:00**  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学 理学部 3号館 204  
TEL&FAX 03-5976-1478 E-mail : [info@npo-ochanomizu.org](mailto:info@npo-ochanomizu.org)  
<http://www.npo-ochanomizu.org>

※会員の方は、お問合せの際、会員番号をお知らせください。会員番号は封筒の宛名ラベルに印字してあります。



◆事務局所在地  
東京都文京区大塚2-1-1  
お茶の水女子大学  
理学部3号館204

◆交通機関

地下鉄 丸の内線  
茗荷谷駅から徒歩7分

地下鉄 有楽町線  
護国寺駅から徒歩8分

都バス  
大塚2丁目バス停すぐ